

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな 経済フラッシュ

(米国金融政策フレームワークの見直しについて)

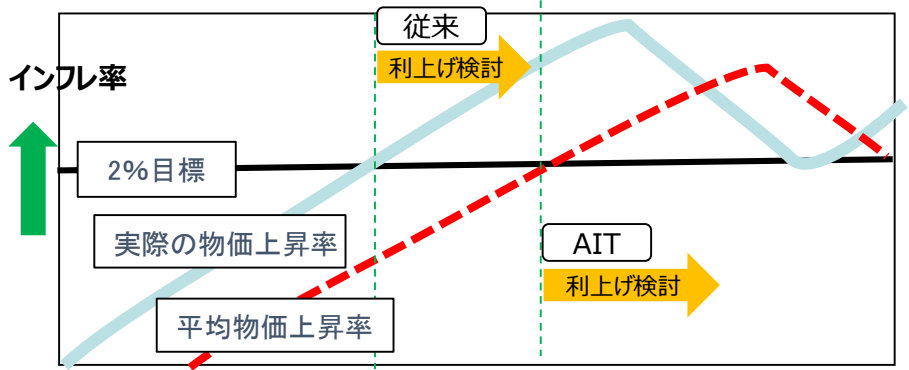
〇概況

- ◆ 昨日のFRBシンポジウムで金融政策のフレームワークの見直しが発表された。主要な変更点は以下3点、①平均インフレ目標の導入、②雇用に対する認識を修正、③フレームワークはおおよそ5年毎に見直し
- ◆ 今後はフォワードガイダンスの強化等、具体的な金融政策運営が焦点。来週に相次ぐクラリダ副議長などFRB高官の講演が注目される。

- ✓ FRBは、ジャクソンホールの年次のシンポジウムで、フレームワークの見直しを発表した(“Statement on Longer-Run Goals and Monetary Policy Strategy”)。抜本的な見直しは2012年以来的こと。
- ✓ 社会構造が変化し、金融政策運営においてゼロ金利制約が意識される中でいかに金融政策効果を上げるかが焦点となった。
- ✓ 主な変更点は以下3点。

①平均インフレ目標(AIT:Average Inflation Target)の導入

- ✓ 長期的なインフレ期待を支えるために、インフレ率が2%を上回ることを許容する。
- ✓パウエル議長は、「柔軟な平均インフレ目標」と位置づけ、具体的な平均の定義せず、FEDに裁量を持たせている



②雇用に対する認識を修正

- ✓ 近年、雇用と物価の相関性が薄らぐ中で、金融政策の目標として、従来のように特定の指標を政策の指針とするのは適切ではないとした。
- ✓ 雇用の最大化を図るうえで、雇用規模における固定的な目標を用いて判断を行うことが適切ではないと強調。最大雇用からの雇用者数の不足に重点を置いて政策対応するとした。

③フレームワークはおおよそ5年ごとに見直し

- ✓ 毎年1月の年次の会合で調整を行い、おおよそ5年で抜本的な見直しを行う。

今後の見通し

- ✓ 今後の焦点は、今回のフレームワークの見直しを踏まえた具体的な金融政策運営の方針。9月以降のFOMCでフォワードガイダンスの強化等が行われるか見極めたい。
- ✓ 来週31日にクラリダ副議長や1日にブレイナード氏の講演も控えており、ヒントが出されるか注目される。

マーケットへの影響

- ✓ 今回のフレームワーク見直しのタイミングはサプライズであったものの、内容は予想の範囲内。市場では織り込まれつつあったが、新たなフレームワークが明文化され、利上げはより慎重に行われることが示唆された。
- ✓ 昨日の市場は、米金利上昇となったが、FRBの今後の緩和スタンスが確認されており、一方向に上昇する展開とはならないであろう。